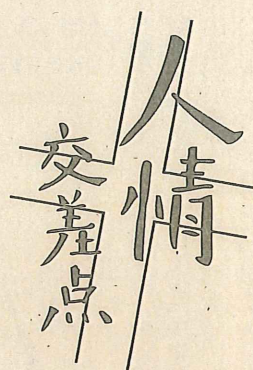


第6話「笠寺観音」

⑤ 若者たちの挑戦



題字は、居酒屋探訪の達人でもあるグラフィックデザイナーの太田和彦さん

「本当に成り立つのか」。愛知淑徳大星が丘キャンパス（千種区）で地域活性化を教える林大策准教授（右）が心配したのも無理はない。南区の等寺観音（中）が心配したのは、分弱の同区戸部町で生きた等寺観音まで徒歩十

ほしいけれど、事前のおもしろかった」と藤と、現実はずつた。自読書を参加の条件にすると、たぶん人は集まらない。自分たちの時から。空のワインボトルに電飾を入れ、部

九月の初回、テーマは「昭和」への
 屋の電氣を消すなど、非
 にはお笑ひ芸人の又吉 日常的な空間を演出し 憧れが一層募った。
 直樹さんの小説「火 だのも好評だった。今 笠寺の町並みに昭和が
 花」を選んだ。フェイ 年三月までに「星の王 のにおいをかぎ取った
 スブックなどで募った 子さま」「べり」とぐ 平野さんにとって、先
 参加者に、引用を交えら などを取り上げて 輩からの引き継ぎは渡
 てA4判二枚にまとめ 計四回開き、地元の会 りに船。「人と人の距
 たあらずじを配布。登 社員や学生ら二十代を 離が近づく環境をつく
 場人物の気持ちを推し 中心に毎回十人前後が りたい」

量る質問などを基に話し合った。

事前に読んでいない事業として認められるまでに。なった。

集まった。ゼミの二環 一方、一地元如若者

だった企画は、大学の が集まれる場所をつく

りた」との思いで読 書会の道筋をつくった

だけに、議論は小説の
筋を軽々と超える。先
藤田さんらが就職活
書の道筋をつくった
藤田さんは来春、東京

動で忙しくなり、一月の三回目からは平野衣理佳さん（三〇）緑区滝ノ水Ⅱから後輩の三年生が引き継いだ。

平野さんは工作機械 地元で恩返しをした
メーカーに勤める父の い」。それまで、平野
転勤で、幼稚園の年長 さんたち後輩が「地元
のときに渡仏。年に愛」を引き継ぎ、育て
一、二回、市内の祖父 てくれると信じてい
母を訪ねると、菓子とる。

つくだ煮を交換したり、玄関先で競馬の予想に興じたりする濃厚保が担当しました）



笠寺観音商店街に若者たちの声が響く。異色の読書会を開く愛知淑徳大の学生ら。平野衣理佳さん④ら3年生は藤田かおりさん（右から2人目）からバトンを引き継いだ＝南区笠寺町で

2016年6月4日(土) 中日新聞 18面より

この記事・写真は中日新聞社の承諾を得て転載しています。